



Phot: Agata Urbaniak (SXS)



光と影

神よ、天の上に高くいまし栄光を全地に輝かせてください。

日本聖書協会『聖書 新共同訳』詩編 108 編 6 節

いよいよ、夏本番です！ このジリジリと照りつける太陽の日差しが、街路樹の下に鮮明に枝葉の影を映し出しています。

小学生の時、太陽の動きと影のつき方を観察するという夏休みの理科の宿題がありました。白い紙の上に一本の棒を固定させ、紙に映った棒の影の先端に一時間おきに印を付けていく……。すると、太陽が東から南に移動するに従いその影は短くなり、南から西に移動するにしたがって、また長くなる。そして、最後、その並んだ点を結ぶとなめらかな曲線ができるという昔から当り前のことでも、初めて知った幼い私には、それは大きな発見でした。

それからだいぶ経過後、赤道直下では太陽が一番高い位置に昇ったとき、それはちょうど私たちの頭の真上にあるため

に、人の背後に影はできないということも知りました。

また、小学生のときにこんなことがありました。晴れた日曜日の教会学校で、先生がカーテンを閉めて薄暗くした部屋の中で、「これからカーテンを一気に開けますから、何か変化を見つけてください」と。そして、カーテンがサッと開いた瞬間、「わあっ〜、ほこりがいっぱい飛んでいるのが見えるー」と子どもたち。それに対して「部屋が暗いときには、このたくさんの埃は見えなかったけれど、明るくなったら空中に飛んでいるのが良く見えますね」「この光は神様の光です。神様から離れて隠れていても、神様の光が当たると、私たちは、この埃のように全部見えてしまうんですよ」と、先生はお話しされました。

私たちが神様を遠くにしてい

る限り、自分の影は長く延びる……。言い換えれば、神様から遠く離れている時は、私たちの心の中に闇が大きく広がっているのかもしれない。けれども、神様を自分の真上に、近くに見たとき、私たちの影も短くなる。それは、神様が近くに来てくださると信じるときに、私たちの心の中の闇も消されて明るくなっているということではないでしょうか。

そして、人からは気づかれていない、あるいは知られていないと思っている態度や行為も、神様の眼差し、光が射しこめば一瞬にしてその姿は明らかにされるのです。

夏の日々、太陽の光を全身に浴びるように、神様の光を心いっぱいに受けて元気に輝きましょう！

JUN

お詫びとお願い

「るうてる」7月号の福音版のバイブルエッセーに掲載した写真は、ご指摘もありましたが、昨今の時代状況を鑑みますに不適切なものであったこと、広報室として心からお詫びします。今後、このようなことがないように十分に注意し、心して編集作業にあたります。なお7月号の福音版につきましては、残部があれば、お手数をおかけしますが適切に処理して下さるよう、お願いします。

広報室長 徳野昌博

ネパールワーカー 楢戸健次郎 先生

ナマステ、サンチャイチャ

Namaste Sanchaicha?

※「ナマステ、サンチャイチャ」はあいさつの言葉で「元気ですか？」等の意味です。

Q. 日本でいう保健婦さんは、いらっ
しゃるのでしょうか？

A. カトマンズには探せばいるかも
しれませんが、ほとんどいないと思

ます。

田舎では、外来に来てもらうのに
平均して片道6時間かかります。道路

がないからです。保健婦さんが訪問と
言っても1日に1軒行ける

かどうか、というところですよ
ね。これから都会(カトマンズ
やポカラ)では、日本で言う
老人医療の問題や緩和ケア
の問題などが出てくると思
います。もともとネパール
は大家族制で、家族で助け
合うのが一般的です。都会
では既婚女性も働きに出たり
するので、お年寄りがど
うしても家に残るようにな
りますね。そうすると、保健
婦さんが必要になってくる
かもしれませんね。



Q. 地方から都会への人口流
出も？

A. かなりあります。カトマンズは今、一応人口100万人
とされていますが、戸籍が
しっかりしていないですし、
統計もあてになりません。実
際は200万とも300万とも
言われています。

田舎は9割以上が農業で、
現金収入がありません。現金収入が
ないと物が買えません。都会に行け
ば何か仕事があるのではないかと、
たくさんの人が出て来るのですが、
仕事はなく、だんだんスラム化して
くるなど、いろいろな問題が出てき
ています。

Q. 先生のように外国から医療協力
に来ている人は多いのですか？

A. 正確にはわかりませんが、多分
100人くらいだと思います。いろ
んな国から。

その多くはキリスト教系のNGO
団体(からの派遣)です。昔、岩村昇
先生がネパールにいたころは「UM
N (United Mission to Nepal)」をは



じめ13くらいの団体が集まり、ネ
パール政府と契約して入ってしま
した。一時はUMN関係だけでも20~
30人いました。それ以外のミッシ
ョン、大使館関係などいろいろな形
でかなり多くの外国人が来ていま
す。が、正確な数字はつかめていま
せん。

私はネパールで仕事をするため
に、ネパール医師会に登録してい
ますが登録しないで医療活動してい
る方もいます。正確な人数は把握で
きません。1ヶ月、2ヶ月の短期の方
も本来は登録しないといけないの
ですが、しないで来ている人も多
いので実際数は掴めていません。

(つづく)

写真提供: Jocs <http://www.jocs.or.jp/jocs/index.html>

イエスの生涯

【祈りの言葉】
主よ、毎日・24時間の誘惑から
守ってください。
信仰によって誘惑に打ち勝つ力を
与えてください。
あなたがいつも
共にいてください。



人形制作 / 杉岡広子
<http://www.bibledollministry.com/>

【その2】 荒野の誘惑

マルによる福音書 1章12~13節

毎日 あくしゅ



子どもたちにとって、「遊び」はとて
も大事なことです。日々の遊びを通して
色々な感触を知り、違いを知り、数を知
り、ルールを知り、そして、仲間と過ごし
ながら人間関係を作り上げていく基本
を学ぶことができます。

たくさんさんの遊びの中に「見立て遊び」
というものがあります。自然の木々や積
み木、お手玉やおはじきなどを自分の思
うものに見立てて遊びます。

ある日、2歳児のS君が花びらをたく
さんプラスチックの容器に入れて「園長
せんせい、ごはんができたよ」と持っ
て来てくれました。

「ありがとうございます。一緒に食べようか……」
と言って食べる真似をすると、その子は
本当に花びらを口に入れてしまいました。
「あ、本当に口に入れたらだめよ
……こうやってあむあむするのよ」
と食べる真似を見せながら、楽しく遊
んでいました。そこへ、1歳児のAちゃ
んがやってきて、一緒に食べたそうにし
ているので「食べる？」と聞くと、まだ
言葉がはつきりしていないAちゃんは
「……る」と語尾だけです。意志表示
をしてご飯を食べました。その後S君が
移動する所、する所に、ずっと私の手を
引っ張ってついていき、花びらのご飯を
美味しそうに食べていました。そして、
ふっとAちゃんを見るとタラ〜とよだ
れが……出ていました。

Aちゃんにとって、花びらは何のご馳
走になったのでしょうか……本当に微
笑ましい光景でした。

地面に散った花びらでさえも子ども
たちにとっては楽しい遊びの材料にな
ります。

神さまは私たちにたくさん恵みを
くださっています。そのことに子どもた
ちと感謝しつつ、毎日楽しく過ごしてい
けたらいいですね。

(園長)